

パルプ・紙・紙加工品

令和2年度

担当者： 情報課 主任研究員 丹羽 俊二



報告内容

1. 紙・パルプ業界全般の現状と動向
2. 岐阜県の製紙業について
3. 県内の製品分野別の現状・方向性
 - 特殊紙・加工紙分野
 - 家庭紙分野（主にトイレットペーパー）
 - ダンボール分野
 - 紙卸商
4. 美濃和紙の現状と今後

1. 紙・パルプ業界全般の現状と動向

紙・パルプ・紙加工業の全般動向

- 製造業の中に於いて、紙・パルプ・紙加工業の占める割合はそれほど大きなものではない。とはいえ、衛生用品など生活必需品や近年需要が増加してきた梱包素材としての需要は、今後も一定以上続くものであり、また、原料が鉱物や化石燃料、陶土などとは異なり、植物という無限の素材であることから、素材の活用性が高まれば、今後は有望な業界となる可能性もある。
- 最近の動向として、原料・燃料等のコスト上昇し、一般の用紙は需要が落ち込み、衛生紙と梱包素材は現状維持か若干の上昇といった傾向にある。
- 一般の用紙等は環境保全やITの進展による電子化の進行で紙離れが進み、需要が低下傾向にある。ペーパーレスに関しては、経済産業省が2026年を目途に紙の約束手形の利用廃止方針を表明。コロナ禍での「脱ハンコ」の進展から電子署名の利用も増加する等、今後もますます紙離れが進んでいくと思われる。
- 段ボールなど梱包関連の業界は、ネット通販市場の拡大や新型コロナに伴う巣籠り需要も相まって国内需要は順調に推移している。
- 衛生紙に関して、世界的に今後の需要増加は見込めるが、各国とも設備投資が進んでいる。国内では需要は景気に左右されず安定しているが、原燃料の高騰による製品の値上げから、輸入品の割合が増加しており、競争が激化している。

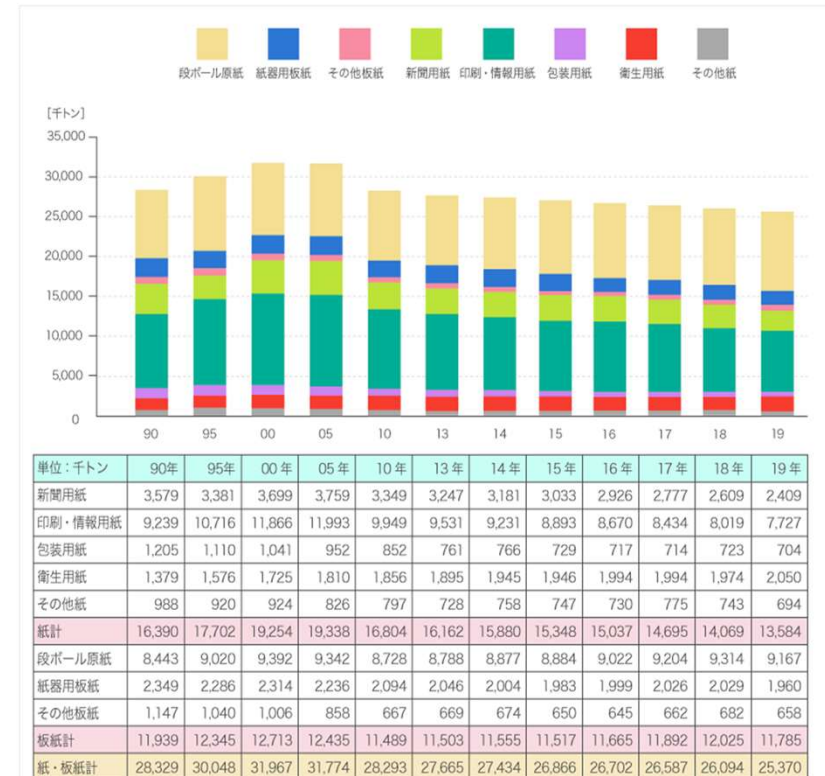
日本の紙の現状

その1 需要

- 緩やかな成長を遂げてきた紙・板紙の内需は、下図のように2000年にピークを迎えたあと停滞し、リーマン・ショック後の2009年に大きく数量を落とし、それ以降もV字回復することなく、停滞もしくは若干の減少傾向を示している。
- ここ数年もCO₂削減等の環境運動、インターネットの利用拡大やIT技術の進歩により、電子化、ペーパーレス化が進み、新聞用紙や印刷用紙を中心に用紙系の需要が減少しており、新たな需要も産み出せない状況が続いている。
- 一方、衛生用紙（トイレットペーパー、ティッシュ、紙おむつ等の素材）は高齢化の進展等もあり日用品としての需要が増加傾向にあり、また、ネット通販の拡大により梱包用として需要のある段ボールも最近では増加傾向にある。
- ただ、いずれにせよ国内の需要は人口の減少もあり、現状では今後の長期見通しは明るくはないといえる。

○ 需要推移

紙・板紙内需



資料：経済産業省「紙・パルプ統計」

日本の紙の現状

その2 生産

- 2019年の生産は、紙は13,502千トン、前年比3.61%減、板紙は11,899千トン、同1.23%減と双方で若干の減少となっている(紙・板紙は合計25,401千トン、前年比▲2.51%)。

- 紙業界全体の生産量は減少傾向にあるものの、衛生用紙(トイレtpーパー、ティッシュ等)及び段ボール原紙については高齢化の進展やネット通販の拡大に伴い堅調に推移している。

- 生産量の推移としては、2000年をピークに一旦下降し、ここ数年は1990年頃を若干下回るレベルでほぼ横這い状態となっている。

- 種別では90年代に比べ紙で衛生用紙、板紙では段ボール原紙の2種以外は生産がほぼ落ち込み、ここ数年でも横這いか低下傾向である。

○生産量の推移

生産量の推移



単位：千トン	90年	95年	00年	05年	10年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年
新聞用紙	3,479	3,098	3,419	3,720	3,349	3,219	3,134	2,985	2,906	2,779	2,594	2,422
印刷・情報用紙	9,251	10,565	11,756	11,503	9,547	8,576	8,491	8,384	8,309	8,242	7,871	7,512
包装用紙	1,185	1,089	1,049	975	904	880	905	891	877	896	897	899
衛生用紙	1,366	1,558	1,735	1,764	1,792	1,747	1,767	1,766	1,807	1,786	1,776	1,831
雑種紙	1,148	1,157	1,078	939	794	760	821	804	807	877	870	838
紙計	16,429	17,466	19,037	18,901	16,387	15,181	15,118	14,830	14,706	14,581	14,008	13,502
段ボール原紙	8,275	9,019	9,676	9,311	8,647	8,805	9,096	9,187	9,364	9,682	9,765	9,658
紙器用板紙	2,242	2,135	2,097	1,891	1,673	1,597	1,593	1,570	1,576	1,597	1,615	1,599
その他板紙	1,140	1,039	1,019	850	656	657	672	642	629	652	668	642
板紙計	11,657	12,193	12,791	12,051	10,977	11,059	11,360	11,398	11,569	11,931	12,048	11,899
紙・板紙計	28,086	29,659	31,828	30,952	27,363	26,241	26,479	26,228	26,275	26,512	26,056	25,401

資料：経済産業省「紙・パルプ統計」

日本の紙の現状

その3 輸出入

- 2019年の紙・板紙の貿易動向は、昨年(2018年)から一転し、輸入増、輸出減となった。輸入は、塗工印刷用紙が+291千トンと大幅に増加。上級印刷用紙、紙器用板紙も各々増加に転じている。輸出は、紙・板紙合計で▲406千トンの減少となった。塗工印刷用紙が▲227千トンと大幅に減少しており、その他板紙以外の全ての品目で減少に転じている。
- 2019年の輸出は国内生産の6.35%、輸入は国内需要の5.39%を占めている。

<輸入推移>

単位：千トン	90年	95年	00年	05年	10年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年
新聞用紙	435	580	613	376	138	53	53	49	24	11	5	2
上級印刷用紙	13	52	247	418	457	577	539	547	511	510	469	481
塗工印刷用紙	122	257	301	554	684	680	628	487	372	353	194	485
包装用紙	30	34	12	5	14	10	9	8	7	8	7	7
その他紙	116	147	74	86	104	152	159	136	147	152	83	83
紙計	716	1,069	1,247	1,438	1,396	1,472	1,388	1,226	1,060	1,033	757	1,057
段ボール原紙	200	123	97	126	134	94	83	56	42	41	48	45
紙器用板紙	119	80	125	188	243	266	254	256	267	262	249	255
その他板紙	0	2	1	1	18	11	11	14	13	11	16	11
板紙計	319	205	223	315	395	371	348	325	323	314	313	311
紙・板紙計	1,035	1,275	1,470	1,754	1,791	1,843	1,736	1,551	1,383	1,347	1,070	1,368

<輸出推移>

単位：千トン	90年	95年	00年	05年	10年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年
新聞用紙	126	100	139	216	58	7	8	6	5	4	4	1
上級印刷用紙	203	113	150	155	143	108	121	136	183	190	253	168
塗工印刷用紙	291	254	441	429	866	463	445	536	571	605	731	504
包装用紙	35	62	88	74	140	181	195	201	219	244	252	244
その他紙	49	99	126	182	140	105	135	131	139	137	155	149
紙計	705	627	944	1,056	1,346	863	904	1,010	1,116	1,179	1,395	1,066
段ボール原紙	68	117	295	99	70	163	258	307	392	565	559	472
紙器用板紙	110	145	151	66	25	19	18	19	20	31	41	39
その他板紙	21	23	42	19	21	16	21	20	25	27	25	36
板紙計	199	285	488	185	116	198	297	346	437	624	625	547
紙・板紙計	903	917	1,432	1,240	1,463	1,062	1,201	1,356	1,553	1,803	2,019	1,613

日本の製紙業の立地



➤ 近代的製紙業の立地条件

- ①製紙に必要な水が豊富
- ②原料の確保が容易
(木材チップ国産材・輸入材)
(古紙原料・・・都市近郊)
- ③製品出荷の便が良い
(駅・港・高速インター付近)

➤ 和紙の産地から近代の製紙業が盛んになったのは、「岐阜県美濃市」の他、ミツマタの産地で平安時代から和紙の生産が盛んだった「静岡県富士市」、駿河から和紙の製法が伝えられた「愛媛県四国中央市」などがある。

出所：日本製紙連合会「平成25年紙・板紙統計年報」

日本の紙・パルプ 原料から消費への流れ



パルプ材(パルプ原料)

国産材：449万トン、輸入材：1,160万トン。輸入材は全体の72.1%を占める。

製紙原料(パルプ・古紙)消費

全体で25.8百万トン。内訳はパルプ：35.5%、古紙・他：64.5%。

古紙回収

古紙利用率：64.4%、回収率：79.5%。利用率・回収率は世界でもトップクラスの水準。

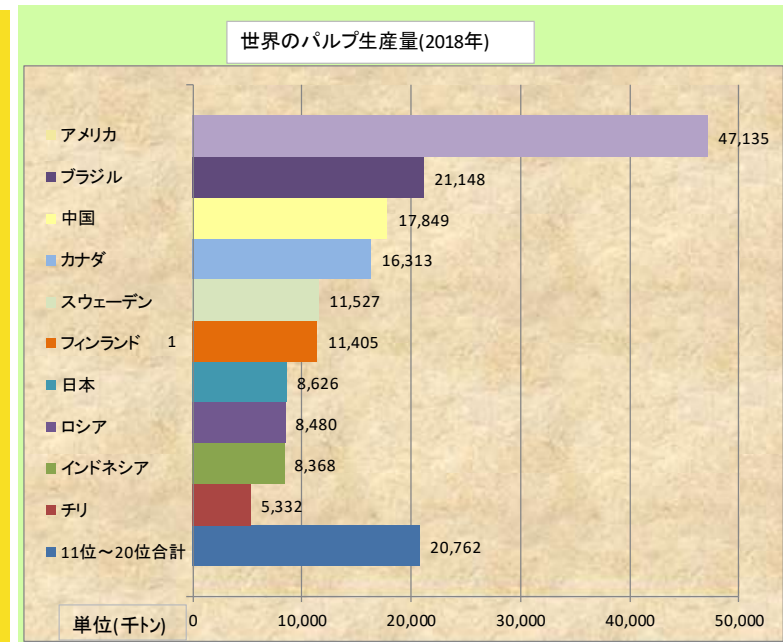
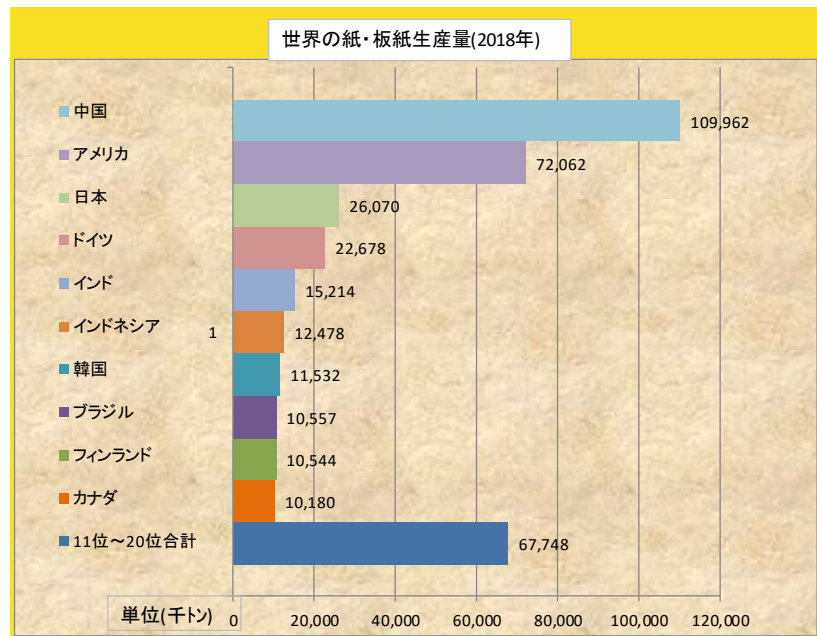


出所：日本紙業連合会(2019年)

世界の紙生産量

～世界を俯瞰する～

- 日本は、中国、アメリカについて世界第3位の紙・板紙の生産量を誇っている(世界全体の6.21%を占める)。
- 原料であるパルプの生産量では、日本は世界第7位のパルプ生産量。前年比では上位5位以内でブラジル、中国が増加となっている。



古紙の回収率・利用率

- 2019年の古紙利用率(紙・板紙合計)は64.3%となっており、日本製紙連合会では2020年度までに利用率65%達成を目指している。
- しかしながら、古紙利用率の内、板紙の利用率は93%超と限界に達しており、これ以上の利用率の向上は極めて困難な状況にある。

<2000年>

パルプ消費量

1,360万t

(製紙原料全体の42.8%)

古紙消費量

1,805万t

紙・板紙国内消費量

3,176万t

古紙回収量

1,833万t

(回収率 57.7%)

<2019年>

パルプ消費量

918万t

(製紙原料全体の35.5%)

古紙消費量

1,652万t

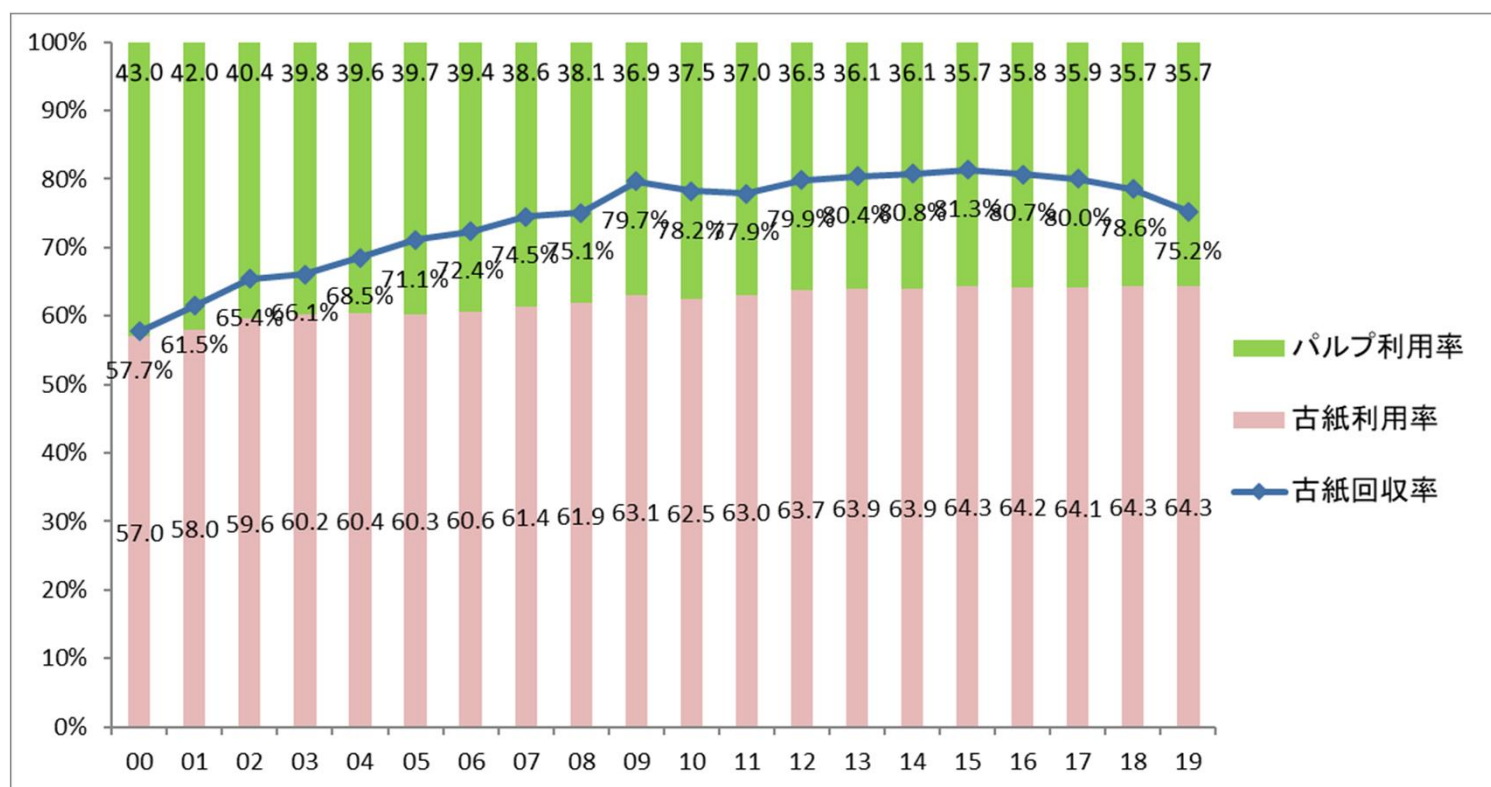
紙・板紙国内消費量

2,537万t

古紙回収量

1,979万t

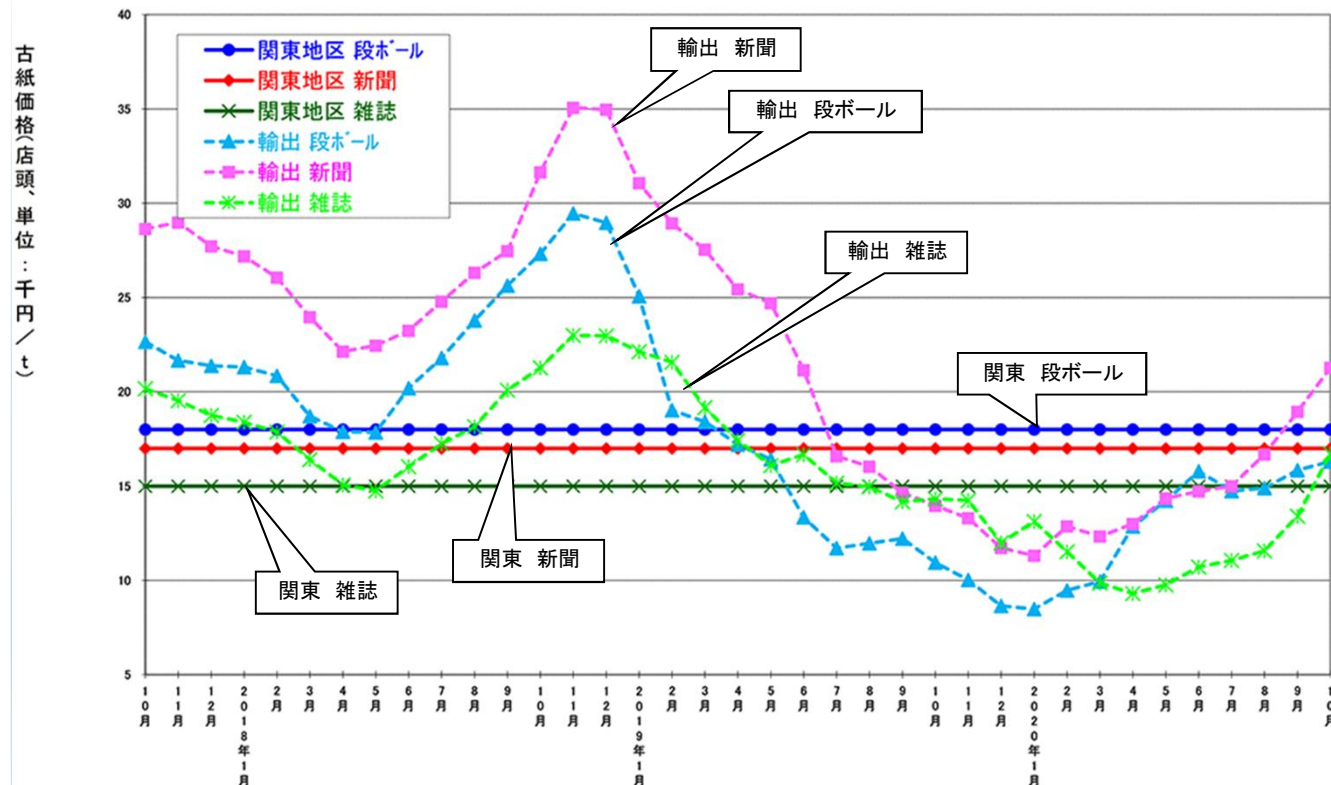
(同回収率 79.5%)



出所: (公財)古紙再生促進センター古紙需要統計

古紙価格の推移グラフ（直近）

関東地区の古紙価格ならびに古紙輸出価格の推移グラフ（3年間）



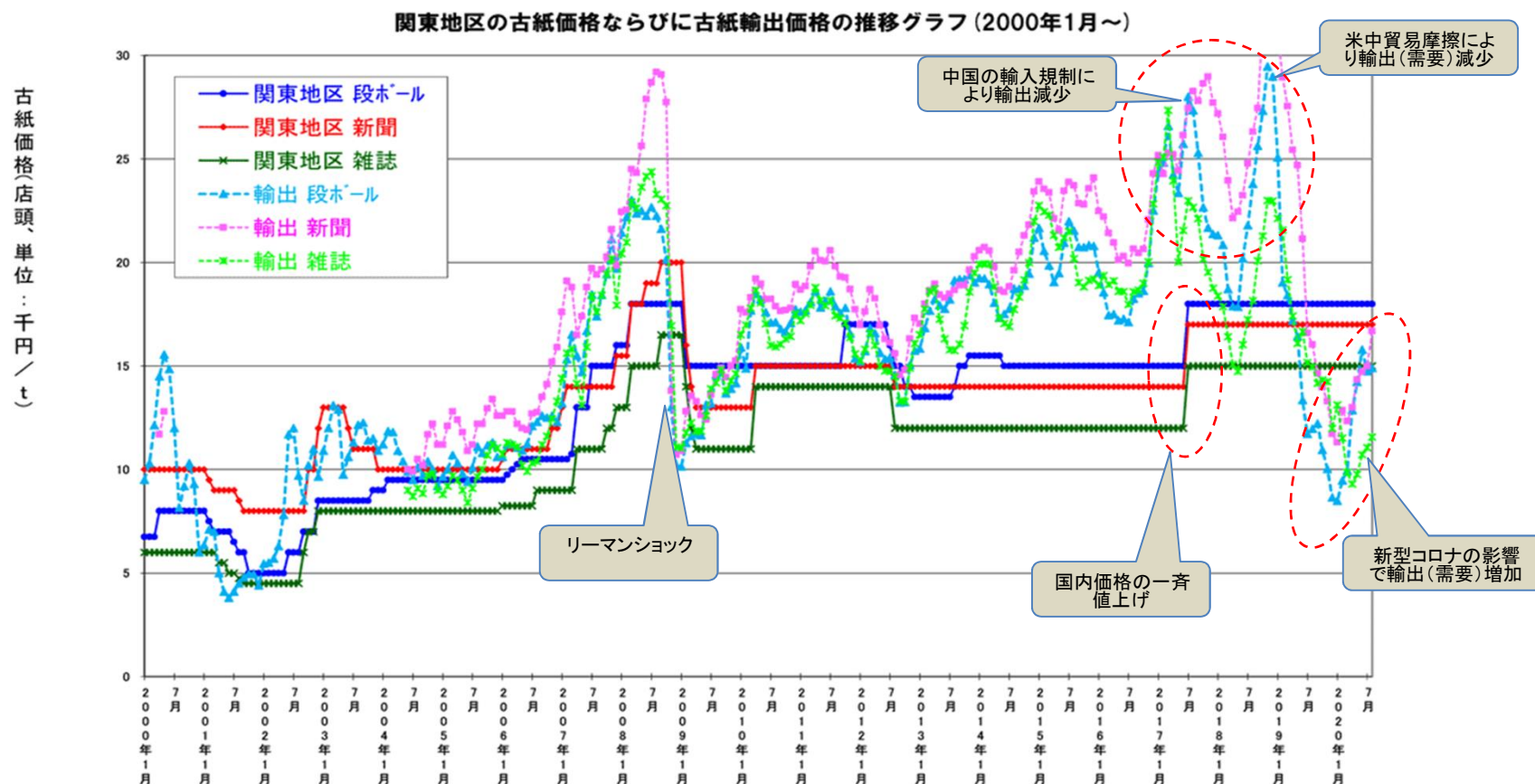
出所：関東製紙原料直納商工組合

<2018年～のポイント>

- ・国内価格は2017年7月に大手が円建値の値上げを実施以降、変動なし。
- ・輸出価格は最大需要国である中国の輸入規制（環境対策目的）により2017年より下落傾向にあった。しかしながら、同規制に伴う古紙不足により現地価格が高騰した結果、品質が高く割安な日本古紙の需要が高まり、2018年末頃まで上昇を続けていた。
- ・2019年以降、米中貿易摩擦激化による中国景気減速に伴い、同国の古紙需要は減退し、再び下落傾向に。
- ・2020年以降、段ボール古紙を始めとした輸出価格は、**新型コロナウイルスにより中国国内での古紙回収が停滞したこと**から日本への発注が増加し、2020年以降は上昇傾向にある。

参考：古紙価格の推移（長期）

- リーマンショックで落ち込んだ輸出古紙価格は、その後上昇。中国等アジアでの需要が増加し高値で推移したが、2017年7月の中国の規制で下落（国内価格は同時期に値上げ実施）。
- 同規制に伴う中国現地価格の高騰（割安な日本古紙の需要増加）、米中貿易摩擦による中国需要の減退（中国景気の減速）を経て、**2020年以降は新型コロナウイルスにより中国で古紙回収が停滞した影響から古紙輸出価格は上昇傾向にある。**



2. 岐阜県の製紙業について

岐阜県の紙の歴史

- 正倉院文書に御野国(美濃国)の古代の戸籍(702年に美濃紙で作成)が所蔵
- 美濃国での和紙生産は、美濃国の国府を中心とした不破・本巢・厚見の三郡から、次第に美濃市の板取川下流域に重心が移動
- 江戸時代には専売制度のもと『和漢三財図会』では「最も佳なるもの」、『新撰紙鑑』には「**凡障子紙の類、美濃を最上とす**」と認められているなど上質の和紙が大量に生産され、「和紙＝美濃紙」という位置付けになった
- 明治末から大正初期にかけての美濃市を中心とした美濃紙の生産は、生産戸数3,700戸、県内生産の80%を占めるまでに発展
- 東濃・中濃地方では、豊富な水とパルプ用木材を基に、大手製紙工場が進出
- 一方、家内手工業的な和紙生産は、近代化への脱皮が困難な上、昭和期になって機械すき洋紙が急増したことなどから衰退
- 戦後は、機械すきによるちり紙・段ボール紙・特殊紙などへの転換が図られ、地場産業としての生産が続行
- 平成26年11月、「本美濃紙＝ほんみのし(美濃市)」を含む「和紙：日本の手漉和紙技術」について、ユネスコ無形文化遺産に登録された



澤村守(編)「美濃紙 その歴史と展開」

岐阜県の紙パルプ産業の立地

- 県内紙産業（特に用水多消費型の紙製造業）の多くは、**長良川・木曽川**の2つの流域に集積している

①長良川中下流域（美濃市、関市武芸川町、岐阜市周辺等）

手すき和紙業者あるいは問屋の中から「機械すき和紙」に転換してきたもので、「美濃和紙」の伝統の流れを汲む機械すき和紙製造業が集積 又下流域平野部においても、豊富な地下水により、**家庭紙・特殊紙・加工紙**などが立地している

②木曽川（飛騨川）流域（中津川市、恵那市、可児市、川辺町等）

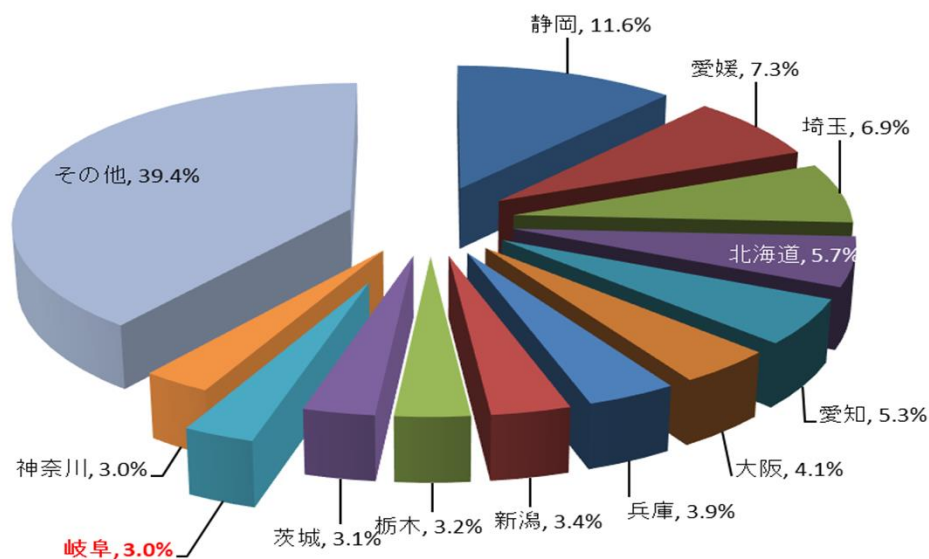
苗木藩などで伝統的手漉き和紙の生産が行われてきたが、明治以降木曽・東濃の木材産地で木材パルプを原料とし、木曽川水系の豊富な水を利用した大手製紙工場が立地している

日本の産業経済の進展に伴う新たな紙需要に対応してきた**洋紙や段ボールなどの板紙製造業**が集積している

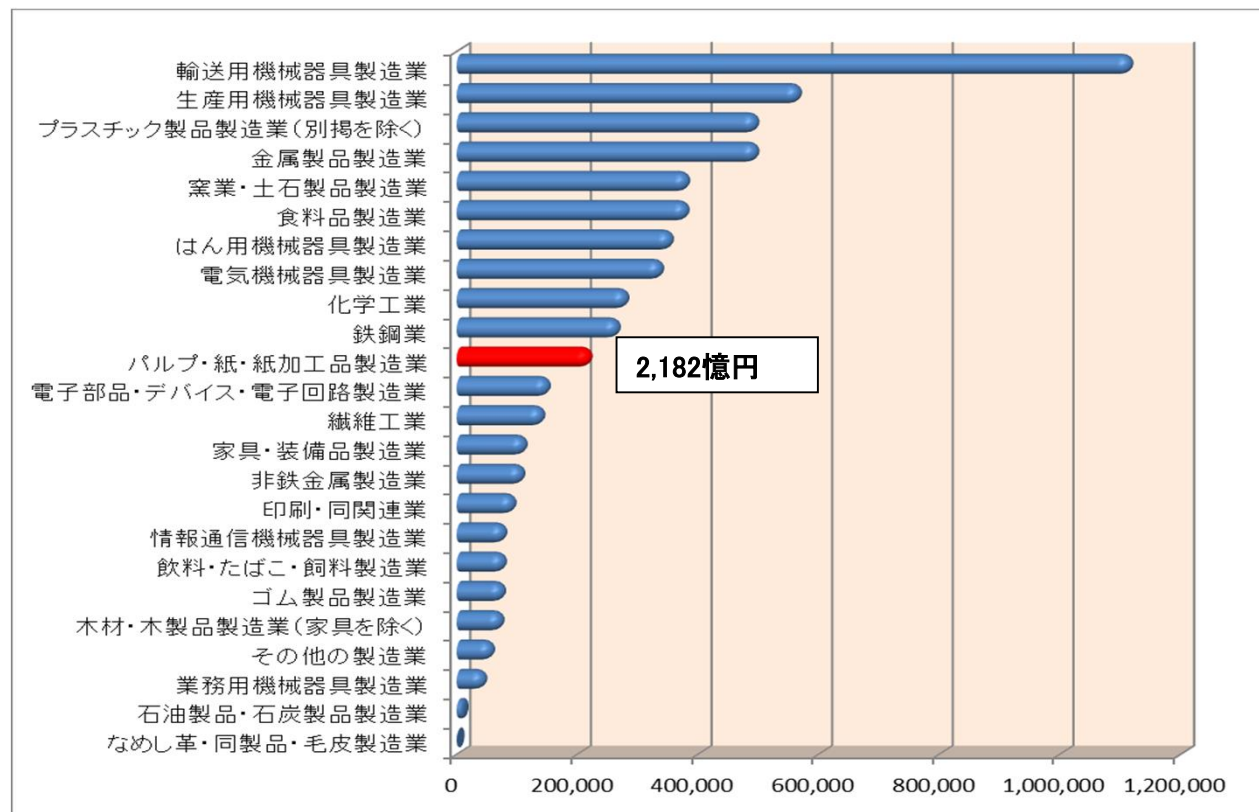
岐阜県パルプ・紙・紙加工品製造業の位置

- 岐阜県の「パルプ・紙・紙加工品製造業」の製造品出荷額は2,044億円で全国第12位となっている(神奈川県は僅差で11位※出荷額2,080億円)。

平成30年 パルプ・紙・紙加工品 都道府県別出荷割合
全国計 6兆8894億円



県内製造業での比較 2018年



製造品出荷額等
全体の3.7%

第11位

* 出荷額は若干の増加

事業所数

全体の3.6%

* 事業所数は減少

従業者数

全体の3.0%

* 従業者数は減少

岐阜県全体での比較	事業所数			従業員数			製造品出荷額等		
	数	増減	構成比	数	増減	構成比	数	増減	構成比
製造業全体	5,487	▲134	100%	204,629	3,300	100%	5,889,711	262,562	100%
紙・パルプ・紙加工品製造業	196	▲11	3.6%	6,114	▲77	3.0%	218,221	3,810	3.7%

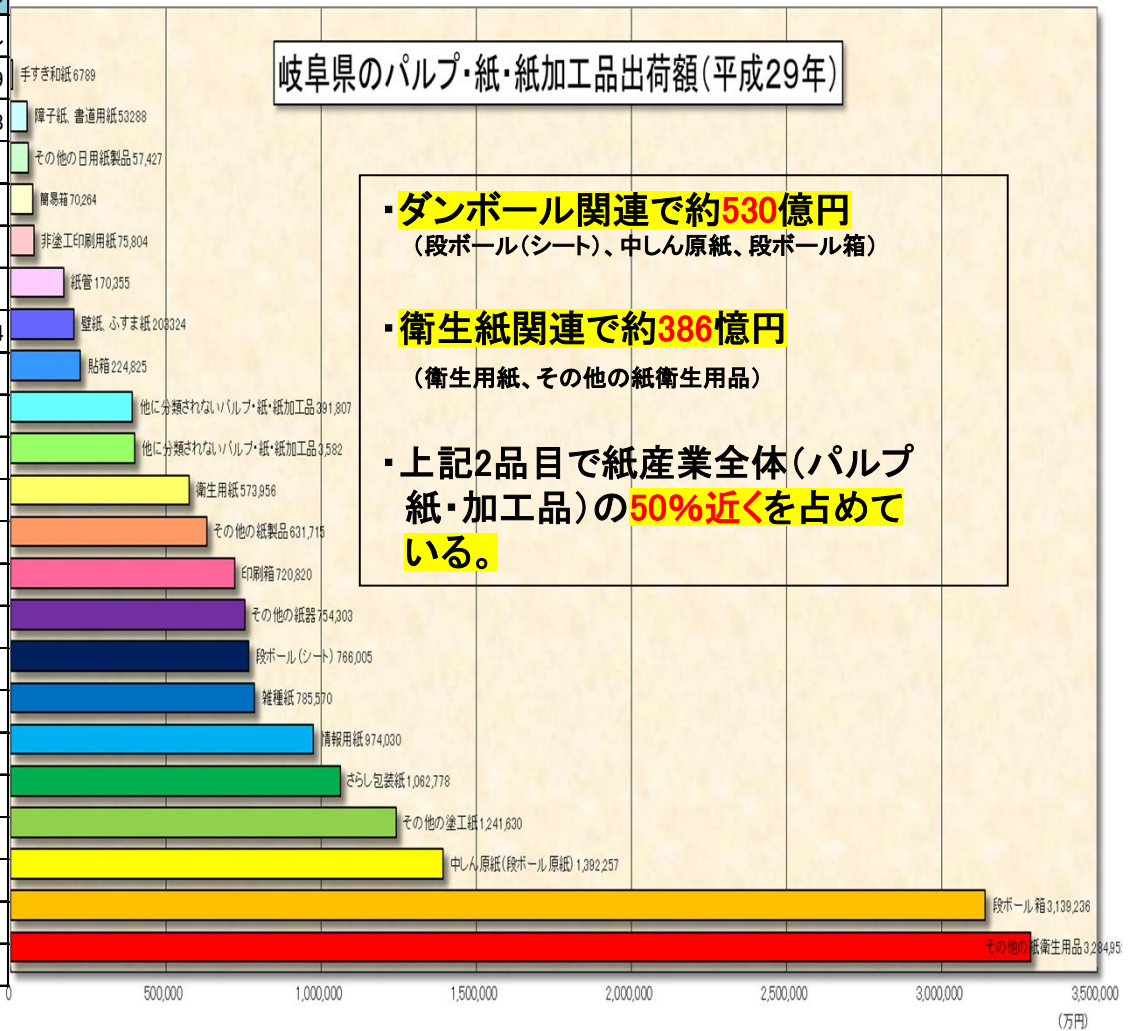
出所: 経済産業省 2019年工業統計表 地域別統計表データ(従業員4人以上の事業所) 比較は2017年の数値との比較

単位: 百万円

岐阜県紙産業の品目別出荷額

パルプ・紙・紙加工品	16,979,676
紙衛生材料	数値なし
手すき和紙	6789
障子紙、書道用紙	53288
その他の日用紙製品	57,427
簡易箱	70,264
非塗工印刷用紙	75,804
紙管	170,355
壁紙、ふすま紙	203,324
貼箱	224,825
他に分類されないパルプ・紙・紙加工品	391,807
特殊印刷用紙	398,541
衛生用紙	573,956
その他の紙製品	631,715
印刷箱	720,820
その他の紙器	754,303
段ボール(シート)	766,005
雑種紙	785,570
情報用紙	974,030
さらし包装紙	1,062,778
その他の塗工紙	1,241,630
中しん原紙(段ボール原紙)	1,392,257
段ボール箱	3,139,236
その他の紙衛生用品	3,284,952

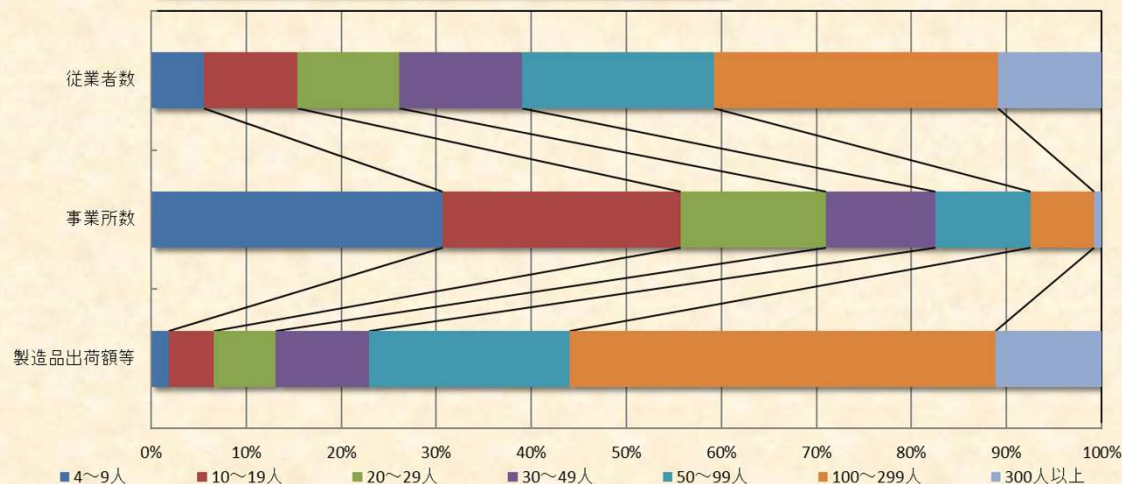
単位: 万円



出所: 岐阜県統計課工業統計調査表(2017年)

従業員規模別 事業所数・製造品出荷額

従業員・事業所・出荷額別構成比／パルプ・紙・紙加工品(全国)



➤ 「事業所数」

全国、岐阜県ともに従業員数
4~9人規模の事業所が最も
多い

4~9人規模の事業所

全国 30.7%

岐阜 29.6%

➤ 「製造品出荷額」

全国は100~299人規模の事業
所が、岐阜県では50~99人規
模の事業所が最も多い

100~299人規模の事業所

全国 44.8% 岐阜 秘匿

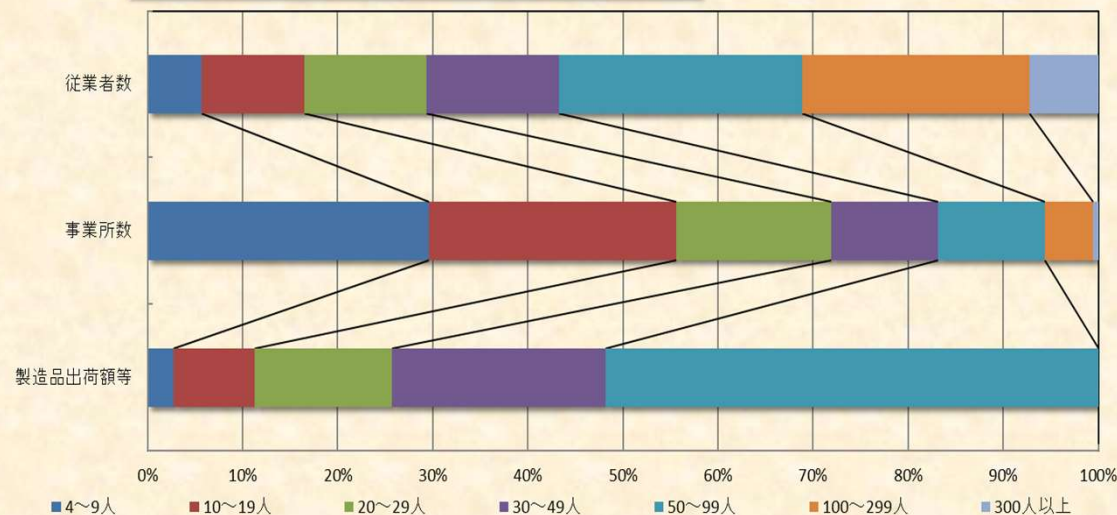
50~99人規模の事業所

全国 21.1% 岐阜 51.8%

30~49人規模の事業所

全国 9.8% 岐阜 22.5%

従業員・事業所・出荷額別構成比／パルプ・紙・紙加工品(岐阜県)



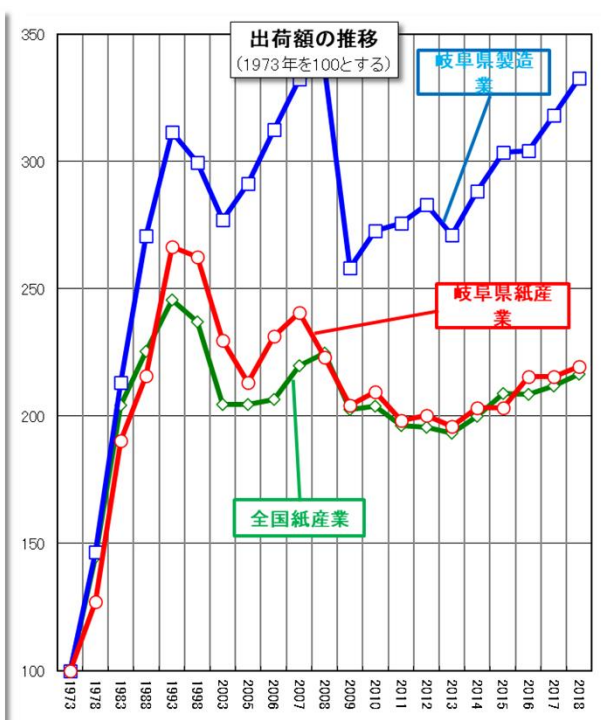
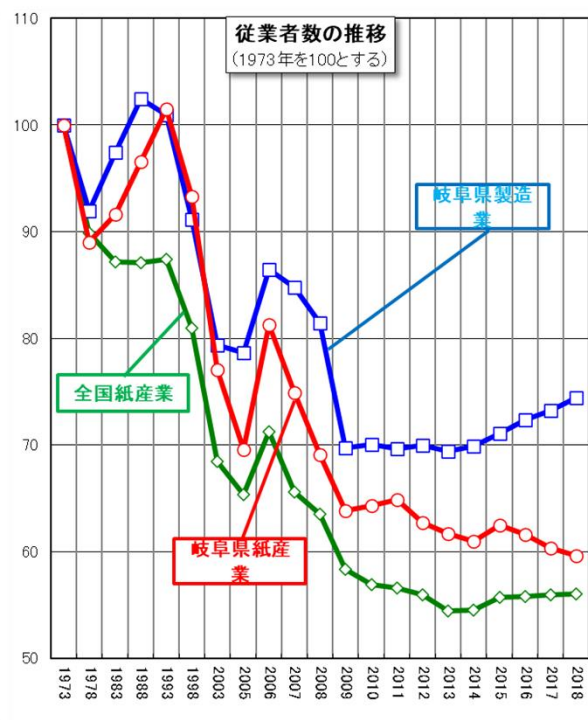
データ: 2019年

出所: 経済産業省工業統計調査

岐阜県工業統計調査

長期の推移(1973～2018年)

- 「事業所数」は、1983年をピークに大幅に減少、さらに2009年にも大幅減少し、以降はほぼ横ばいに推移している。
- 「従業者数」は、1993年をピークに大幅に減少、2006年に一定の回復を示すが、翌2007年～2009年にかけて再び大幅な下落となり、以降はほぼ横ばいに推移している。
- 「製造品出荷額」は、全国紙産業と岐阜県紙産業とは概ね同じ傾向で推移している。ただし、リーマンショック以降(2010年～)、岐阜県製造業全体が回復傾向にあるのに反して、全国・岐阜県の紙産業は伸び悩んでいる。



出所:経済産業省 2017年 工業統計調査

品目で見た岐阜県紙製品の位置付け

[岐阜県での出荷額が全国5位以内の製品]2018年【単位:百万円】

- その他の紙製衛生用品(全国:442,855) **5位**(岐阜県:34,932) 【 7.2%】
- さらし包装紙 (全国:43,480) **1位**(岐阜県:10,098) 【 7.1%】
- 衛生用紙 (全国:233,152) **5位**(岐阜県:5,235) 【 8.4%】
- 特殊印刷用紙 (全国:25,836) **2位**(岐阜県:3,790) 【 5.9%】
- 情報用紙 (全国:191,788) **3位**(岐阜県:9,293) 【11.8%】
- その他の日用紙製品(全国:8,460) **4位**(岐阜県:223) 【 3.1%】

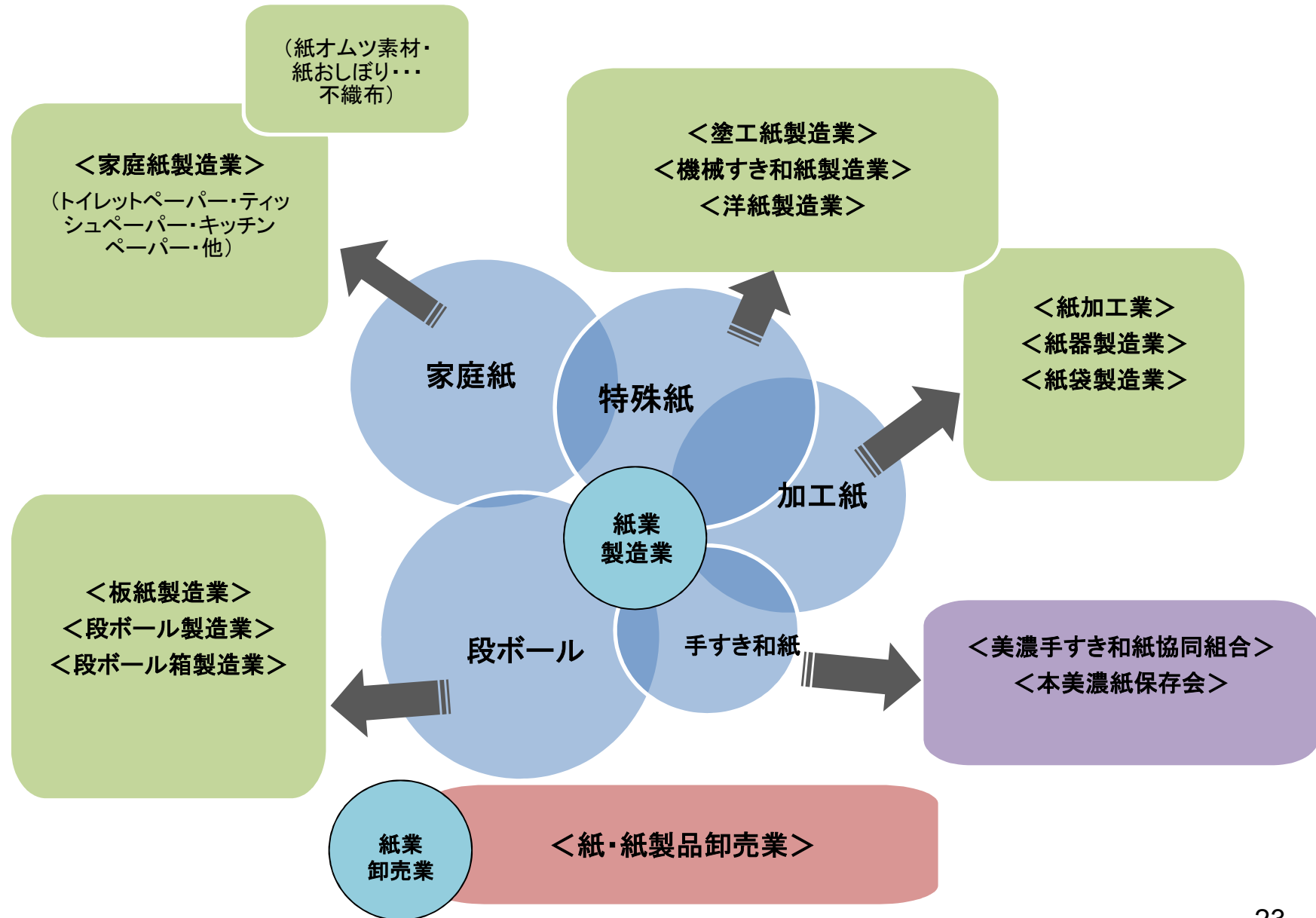


※衛生用紙はティッシュペーパー用紙、トイレtpペーパー用紙など
 ※その他の紙製衛生用品はティッシュペーパー、トイレtpペーパーなど

出所:2019年経済産業省工業統計調査
 (出荷額ベース、従業者4人以上の事業所)

3. 県内の製品分野別の現状・方向性

県内企業の製品別分野



業界団体別 岐阜県紙業連合会

他

○「美濃手すき和紙」を原点とする紙業界の団体特殊紙・加工紙の企業が加盟する他、家庭紙の企業で構成する岐阜県家庭紙工業組合と手すき和紙の工房で構成する美濃手すき和紙協同組合が団体加盟している

<特殊紙>

- ・ 産業用として「合紙」「衛生用紙原料」「濾紙」「フィルター」など
- ・ 一般用として「機械すき和紙」(便箋、封筒、障子紙)→あぶらとり紙へ

<家庭紙>

- ・ 大手の生産能力に及ばず、また価格競争にも巻き込まれ厳しい
- ・ 地元での「地産地消」に活路、機密文書古紙の溶解事業など

<手すき和紙>

- ・ 「美濃」「越前」「土佐」が和紙の三大産地、
- ・ 伝統工芸品として他産地が縮小する中、最後まで残りたい ユネスコ登録産地との連携

<段ボール> 段ボール企業は別団体の「中日本段ボール工業組合」に所属

- ・ アパレル、刃物、陶磁器の産地生産拠点が海外へ→需要減少
- ・ 通販関連、家電、プラスチック、自動車部品→需要増加⇒生産地のシフト

製品分野別の動向

- ①特殊紙・加工紙分野
- ②家庭紙分野
- ③ダンボール分野
- ④紙卸商

① 特殊紙・加工紙分野

＜業界の特色・現状＞

- 特殊紙とは、特殊な加工により、従来の紙に新たな機能（濾過、吸着、耐熱性、耐薬品性、脱臭、防錆等）を付与した高付加価値製品
- 紙のみでは無く、様々な素材を原料にした製品を取り扱っている
- 食品、生活・住宅、土木建築、機械、医療・健康、航空・宇宙、電気など幅広い産業で使われる。最終製品では無く素材提供が多いため、各業界の動向に影響される
- 汎用品では無く、業務用等、ニッチな市場の製品が多く、高付加価値・多品種・小ロット・短納期の生産体制で、B to Bが中心
- 紙・パルプ業界では将来性が高いと見込まれる分野である
- 市場が拡大すると、大手が大量生産し単価が下落、海外生産へのシフトが懸念される
- 原材料費の上昇分を価格転嫁する事は難しく、コスト削減に注力

① 特殊紙・加工紙分野

＜今後の方向性・課題＞

○自社の技術力を活かし、時代に合った製品づくりを行う

特殊紙の分野が、最も展望が開ける分野であると考えられる

→**今までの「紙」の範疇から離れていくことも・・・**

○常に新製品の開発に取り組む意欲と技術力(人材)、体力が求められる

製品開発は顧客の要望にどれだけ応えられるか、さらには積極的な提案ができるか、技術力、開発力、企画力、提案力が鍵

○特殊紙はニッチな分野が多いが、市場が拡大すると大手の参入が脅威となる また、汎用品レベルになるとコスト面で海外勢が脅威となり、絶えざる品質の差別化が必要

○一つの製品に特化することは、スペシャリストとしてのメリットがある反面、それに頼り切ることによるリスクも大きいことに留意が必要

*** 上記のように、力さえあれば中小企業向けの分野といえるが、そのため新製品の開発などでは協力体制や支援体制が必要ともいえる**

② 家庭紙分野（主にトイレットペーパー）

＜業界の特色・現状＞

- トイレットペーパーの全国での生産量シェアは、中小メーカー約65%・大手メーカーが約35%を占める。ちなみに原料で分類すると、パルプが35%で再生紙65%となっている。
 - ・静岡県は約4割とトップで生産量も維持、岐阜県は生産量低下気味(シェア約2%)
 - ➡静岡被災時を想定し経産省が一ヵ月分備蓄を呼び掛けたこともある(2014年)
 - ・岐阜県内事業所は、かつての28社 から現在6社へ減少している
- 通常時は、供給過剰による製品の低価格(低収益)が常態化
 - ・消耗品であり需要は確実にある商品だが、商品の差別化は難しい
 - ・大手が大量生産(純パルプ原料)し価格を下げて販売
 - ⇒中小(再生紙)の価格はさらに下げざるを得ない
 - ・但し、大震災などでは品不足になり、トイレットペーパー騒動が発生することもある。
- 量高な製品で輸送コストは高いが、近場で捌ききれない為、関東、関西へ供給
- 用途は業務用が主流。官公庁、企業、公団など
- 一般用では小売りの大型化。販売ルートは大手食品スーパー、ドラッグストア、ホームセンターなど、一定以上の生産能力が要求される

② 家庭紙（主にトイレットペーパー） 続き

<業界の動向と課題>

○廃棄物処理問題（汚泥の処理）⇒自前の汚泥処理施設が無く、県外へ出している。

- ・従来は肥料やコンクリートに混ぜて使用していたが、セメント業界が不振となり最近では、製鉄所に供出しフォーミング剤（高炉の沸騰を抑える）やゴムタイヤのリサイクル処理で出る廃棄物に混ぜて焼却するなどの用途に使われている。

○古紙高騰（原料高）の影響を抑える

- ・一時安定していた古紙価格が、中国の輸入量増加に伴い、2017年より国内価格も値上げを実施しており、製品の幅などを調整して価格を抑える必要がある。
- ・古紙も日本の資源であり、輸出による減少への対策を行い、国内の需要を確保する必要がある。

○業界再編などの動きが出つつある。

- ・業界トップの大王製紙が日清紡の家庭紙部門を買収したり、第2位の日本製紙が春日製紙と共同で家庭紙生産工場を立ち上げるなど、大手を起点とした動き有り。
- ・従来、大手はパルプを原料、中小は古紙を原料としていた棲み分けが、上記の結果崩れてきており、業界内の競争や再編の動きは激しくなりそうである。

○パルプ製品

- ・トイレットペーパーは使用すればリサイクルは出来ない。それを考慮して極力パルプ製の占める割合は減らす方向に持っていくことが理想である。

② 家庭紙（主にトイレットペーパー） 続き

＜今後の方向性・対策＞

○古紙高騰（原料高）の影響を抑える

- ・古紙業者からの高価買い取りではなく、廃棄文書溶解サービスによる自社回収率を上げる。取引先の拡充と関係強化による、古紙リサイクル体制を構築する

○小売価格の維持・上昇を図る

- ・現状、456円（1パック・12ロール※小売物価統計調査2020年9月名古屋市）の水準
前年比▲13円（同2019年9月名古屋市）となっており、比較可能な直近相場は前年比下落傾向にある

○今後の生き残りのための方策

- ・中小ならではの強みを活かす（多品種・小ロット・短納期）
- ・機械設備の更新などによる品質向上（古紙の不純物除去・リサイクル技術等）
- ・業務用のウェイトを高める（比較的価格が高く変動がない）
- ・取引先との関係強化（リサイクル・環境保全の提案、安定供給、アフターサービス）
- ・地産地消に活路（古紙リサイクル循環）
（どうしても中小では機密書類等へのセキュリティ意識が低いので意識付けも必要）

③ ダンボール分野

＜業界の特色・現状＞

○ダンボール業界は、主に以下3段階に区分

①原紙メーカー

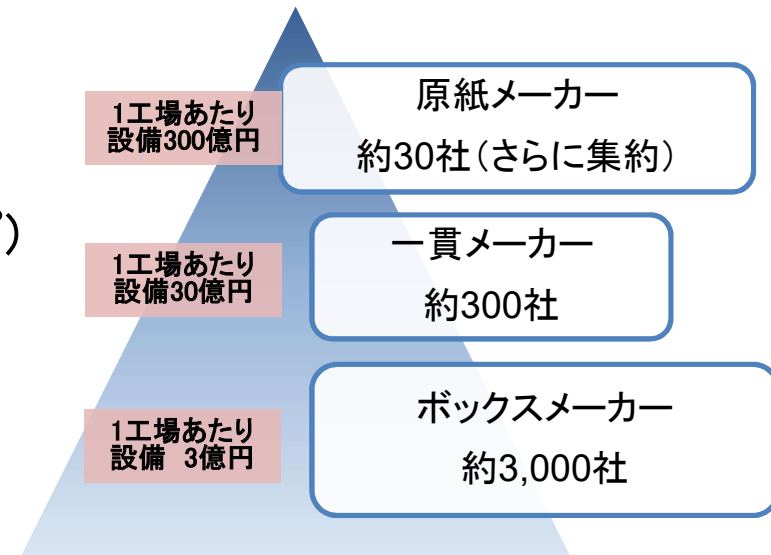
・ライナー・中芯から製造する(大手グループ)

②一貫メーカー

・原紙を仕入れ、ダンボール製造

③ボックスメーカー

・ダンボールを仕入れ、ボックス製造



○現在、ダンボールに代わる新代替品はなく、様々な産業用包装資材等として広く利用。

特に、食品業界が大きな割合を占めている(食品関係はあまり変動もない)

○包装資材としての寸法やデザインなどはユーザー仕様であり、受注生産型

○軽量だがかさばり、運送コスト高いため、消費地圏内の立地

➡ 岐阜県内では全30市郡のうち25市郡に立地している (TSRによる調査)

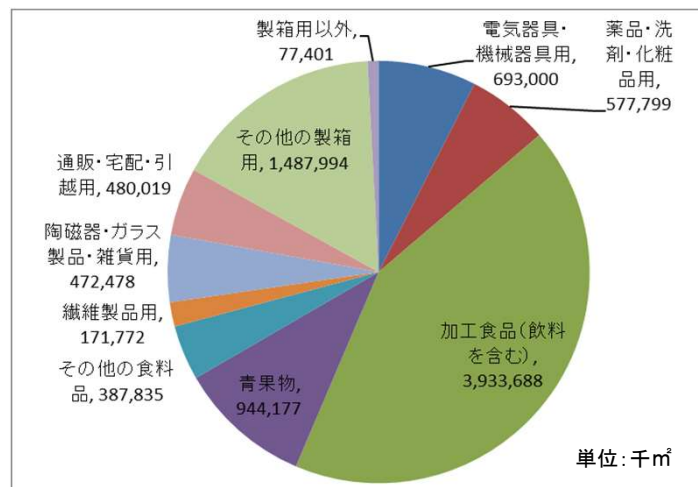
○大手が原紙～ダンボール～箱加工までやってしまう。また、小口需要も取込みながら裾野へ下りてきている

➡ 県内では少量多品種生産、柔軟で迅速な対応により対抗している

③ ダンボール分野 その2

＜続き＞

- ダンボールの生産量は、2019年以降、前年を下回る状況が続いたものの、2021年は前年比101.4%と増加を予想しており、回復ペースは緩やかなものに留まるとみられている。
- 段ボールの用途自体に大きな変化はない。



出所: 全国ダンボール工業組合連合会「2021年ダンボール需要予測」より

用途	2017年	2016年	差額	増減率
電気器具・機械器具用	693,000	668,172	24,828	3.7%
薬品・洗剤・化粧品用	577,799	569,326	8,473	1.5%
加工食品(飲料を含む)	3,933,688	3,854,326	79,362	2.1%
青果物	944,177	978,828	▲ 34,651	-3.5%
その他の食料品	387,835	394,494	▲ 6,659	-1.7%
繊維製品用	171,772	166,896	4,876	2.9%
陶磁器・ガラス製品・雑貨用	472,478	471,986	492	0.1%
通販・宅配・引越用	480,019	437,061	42,958	9.8%
その他の製箱用	1,487,994	1,436,882	51,112	3.6%
製箱用以外	77,401	70,173	7,228	10.3%
合計	9,226,163	9,048,144	178,019	2.0%

前年比較では、通販・宅配・引越用の伸び率が高い。(増減率9.8%)

③ ダンボール分野 その3

<続き>

- 古紙価格が中国の動向により大幅に変動している。中国の製品在庫余りによる減少や環境対策による規制強化などの影響が特に大きい。
- 再生古紙のリサイクルが進み、古紙の品質が落ちてきている。…リサイクルを繰り返すと、紙の繊維がだんだん小さくなり抄いたときに紙の強度が落ちる。
- 原材料高に見合った値上げができていない。2017年夏以降、原紙メーカー(大手)が値上げしてきたが、ボックスメーカー(中小・零細)への転嫁は簡単ではない。(紙業界全般に言えることだが、実際に倒産したA社の代わりに提供を打診されたB社が、A社のような低価格での提供ができないことを理由に謝絶したという話もあった)
- 自動車関係、産業機械等の工業部品向けダンボールについては**新型コロナウイルス**による各業界の低迷に伴い大きく需要が落ち込み、依然厳しい状況にある。
- また、イベント関係(ポップ等)やブライダル、葬儀関係(引き出物等)、土産物(お菓子等)向けダンボールについても外出自粛やインバウンド需要の蒸発により需要が減少し、依然厳しい状況にある。
- 一方で外出自粛に伴う巣籠り需要の影響から、食料品(お菓子等)や室内で楽しむ娯楽用品(楽器等)向けダンボールについては需要が増加傾向にある。

③ ダンボール分野 その4

＜今後の方向性・課題＞

- 景気に左右される産業ではあるが、ダンボールに勝る代替品がないかぎり、比較的出荷量は安定。(物流があるかぎりなくなるしない)
- (販売価格転嫁原紙仕入先(大手)との関係強化等による仕入コスト抑制や、製造合理化によるコスト削減が欠かせない。
- 大手とはバッティングしないようにする。多品種・小ロット・短納期の地域密着型営業を通じて、顧客ニーズを満たす、精度の高い設計・強度を提案・実現していく。
- 新たな需要の掘り起こし。(飛沫防止パーテーション、避難所向け製品、テイクアウトパッケージ等)

④ 紙卸商

＜業界の特色・現状＞

○代理店・商社（1次卸）は、大手製紙会社の販社や大手商社

○卸商（2次卸）は、都市部及び地方に存在し、かつて600社以上あったものが現在は400社をきった

＊業界団体の日紙商組合員数548(2006年)→369(2016年)

○岐阜県県内では、30社ほど存在しているが、飽和状態である。
（日紙商の組合員は15社）

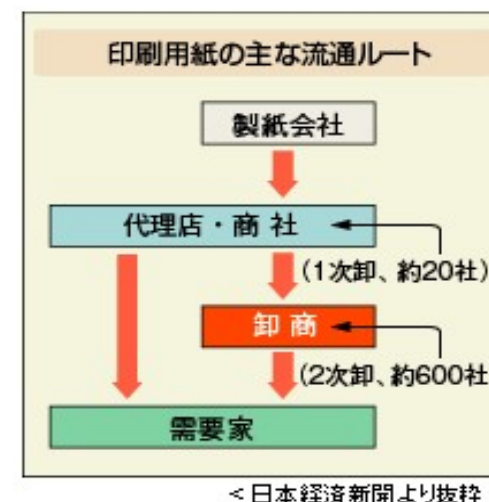
○卸商にとって重要な顧客である中小印刷業界も紙の使用は縮小傾向にあり、事業所数自体も減少傾向であり販売面は厳しい。

○大量に売れる商品（印刷用紙）自体の差別化は難しく、それ以外の面で独自性を出し、絶え間ない価格競争をしている。

○ここ10年の紙の販売動向を見ても総量的には下降傾向にあり、国内市場は先細りでパイの奪い合いになっている。

○地方では、右上図の流通ルートでも卸商経由が従来は多かったが、全国的な代理店などが地方市場に進出してきており、地方の卸商にとってはますます厳しい状況となっている。

○2017年には大手メーカーによる原紙の値上げがあり、中小では抵抗が難しく、また競争面で販売価格への転嫁も難しい。



④ 紙卸商

＜今後の方向性・課題＞

○紙・板紙などは物流コストの売上高に対する比率は、全業種の中でも高い。

（それ自体は物理的な問題であり、根本的な解決はない）

○紙卸商は所謂問屋に当たるものであり、ユーザー（大口は印刷業者、大手のシステム部門など）は、紙メーカーからの流通における地域拠点として、倉庫機能や物流機能を期待されている。このため、こうした機能の効率化や迅速化が必要となる。

○各社の独自性を出すため、大手に対抗していくためには、個々の需要家ニーズに即した裁断加工精度アップ、配送機能の強化を図っていき顧客満足度を上げていく。

○効率化やサービス向上のため、地方の同業者間で協業も視野に入れていく。

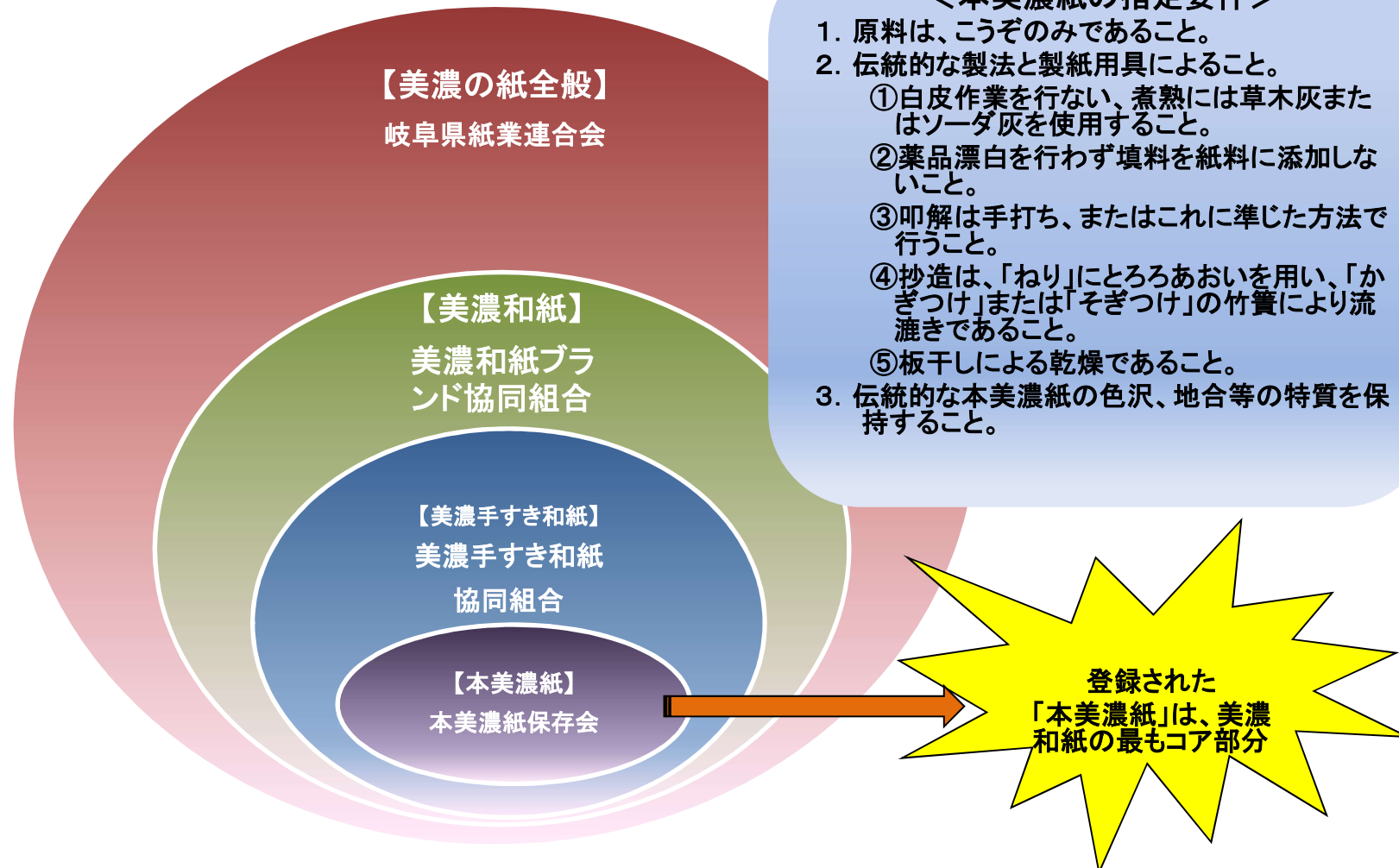
○地方市場への販売強化のため、代理店・商社（1次卸）主導による、卸商（2次卸）の合併等の再編成が進み、また、県外企業の販路拡大による市場参入など、従来有った地域毎の地方市場が変容したり、全国市場の一部となっていくことが想定される。

4. 美濃和紙の現状と今後

～ユネスコ無形文化遺産登録を受けて～

ユネスコ無形文化遺産登録

平成26年11月、本美濃紙の手すき和紙技術についてユネスコ無形文化遺産登録が決定



ユネスコ無形文化遺産登録

本美濃紙は、最高級の障子紙として高く評価されてきた
現在は、主に、障子紙のほか文化財保存修理用紙としても用いられている

産業界 企業の声

<否定的意見>

- 産業用特殊紙業界への影響は特にない(産業紙は「美濃和紙」ブランドよりも「(最終製品の)企業」ブランドが前面に出る)
- 家庭紙(トイレトペーパー)やダンボール業界にも特に影響はない
- 本美濃紙の需要が本当にあるかといえば、実際はごく限られている
- 注目されるのも一時的であり、価格も1枚数千円することから、今回上昇した注目度や売上を維持するのは難しい
- あくまで、(過去のものを残そうとする)「遺産」である

<肯定的意見>

- 美濃和紙のルーツがはっきりして、本美濃紙をコアとして対外的に明示することには意味がある
- 美濃紙の「芯」ができ、フラッグ的役割を期待している
- 話題性があり、取引先とのパイプが強くなった(一目置かれる)
- 「和雑貨」等の紙加工業者にとっては、相乗効果を狙える
- 県内より県外、国内より海外での注目度・評価は高い
- 中国での商標登録に対抗し、いわば世界のお墨付きを得た本物の「美濃紙」として宣伝できる
- 「観光」の 카테고리として、地場振興につなげられる⇒インバウンドの増加

対応策

- 「紙業界」にとらわれない多用途の可能性追求
- 「異業種」「異文化」との融合による新たな価値(需要)の創造
- 「最高品質」が受け入れられるニッチ分野・文化の開拓
- 「本美濃紙」を冠した、美濃の紙産業全体としてのブランドを底上げ
- 世界を見据えた積極的な対外発信
- 岐阜県全体の協力体制で観光産業として振興

手すき和紙(後継者・技術)の
保存継承の促進へつながる

美濃和紙の推進 実績

H28年度～R元年度（9月末）実績（一部）

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度
美濃和紙ブランドの確立・PR	・ブランドマークコンセプトブックの作成 ・5都市（東京・パリ・ミラノ・ニューヨーク・岐阜市）でブランド発表会開催	・NY NOW（米ニューヨーク）へ出展 ・インテリアライフスタイル展（東京）へ出展	・東京国際ナショナル・ギフトショー春2019出展 ・読売新聞本社ビル（東京）で「美濃和紙フェア」開催	・老舗百貨店「ヒールズ（英ロンドン）」でワークショップ開催 ・商業施設「まるごとにつぼん（東京）」でワークショップ開催
ユネスコ登録3紙（石州半紙、本美濃紙、細川紙）連携事業	・和紙サミット開催：島根県浜田市	・和紙サミット開催：埼玉県小川町・東秩父村 ・テストマーケティング：東京都、大阪府	・和紙サミット開催：美濃市 ・テストマーケティング：埼玉県、京都府	・和紙サミット開催：島根県浜田市 ・テストマーケティング：大阪府
美濃和紙あかりアート作品による観光誘客	—	—	・全国各地（東京都目黒区、富山県高岡市等）であかりアート作品を展示	・全国各地にて同作品のPR
台湾ランタンフェスティバルにてあかりアート作品の展示	—	・開催場所：嘉義縣 来場者数：1,068万人	・開催場所：屏東縣 来場者数：1,339万人	—

- ・上記実績は「美濃和紙伝承 千年プロジェクト」の一環で実施されたもの。同プロジェクトは「美濃和紙による地域活性化」「世界への情報発信」「手すき和紙技術の保存・伝承」の3つを柱に構成されている。
- ・R2年度事業については東京都等、各地で展示会等が予定されていたが、**新型コロナウイルス**の影響で多くの事業が延期又は中止となっている。
- ・美濃市主催の「美濃和紙あかりアート展」についても例年、同市の「うだつの上がる街並み」を会場としているが、令和2年度は**新型コロナウイルス**の影響により**初のWEB開催**となっている。

①美濃和紙新ブランド認定基準

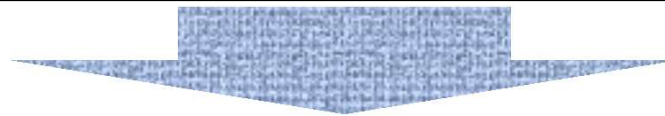
【従来のブランド】

- 経済産業省特許庁が所管の地域団体商標として「美濃和紙」があった
- 岐阜県岐阜市、関市、美濃市で生産される和紙、岐阜県岐阜市、関市、美濃市で生産される和紙製便せん・封筒・葉書・一筆せん・色紙・名刺用紙・短冊・のし袋・水引・ノートブック・メモ帳・文庫本カバー・巻紙など



＜問題・課題＞

- 「岐阜市、関市、美濃市(以下、3市)で生産」という定義が曖昧⇒3市で漉いた紙しか認めないのか、3市で商品化(加工)されればよいのか・・・(原料や製法の詳しい規定がない)
- 他産地の紙を持ち込んで、3市内で販売されるだけで、『美濃和紙』商標が使われてしまっている



【ユネスコ登録を機に新ブランドの検討】

- 美濃和紙活性化会議にて「美濃和紙の更なる知名度向上及び需要拡大」のために、既存ブランドの改訂ではなく、新ブランドの構築を行うため27年11月に「美濃和紙ブランド価値向上研究会」を設置し、検討を実施。
- 既存のものはそのまま存続とし、新たに「本美濃紙」「手すき和紙」「機械すき和紙」の3区分の新ブランド認定基準を創設する方針を28年4月に発表した。
- 平成29年3月「ワールドプレミア美濃和紙ブランド展」を世界5都市(東京・岐阜・パリ・ミラノ・ニューヨーク)で開催し、新ブランドのお披露目会を行った。

美濃和紙新ブランド認定基準

【新ブランド認定基準】

- 既存のものはそのまま存続とし、新たに「本美濃紙」「手すき和紙」「機械すき和紙」の3区分の新ブランド認定基準を創設する方針を28年4月に発表した。主な基準内容は下図の通りで、認定は美濃和紙ブランド協議会が行う。
- 平成29年3月の世界5都市でのお披露目会には新ブランド3区分で雑貨やインテリアの新商品展示も行われた。

新ブランドマーク→



新ブランド基準	原料規定	製法規定	産地他
本美濃紙	大子那須楮(白皮)のみ	完全に伝統的な製法	美濃市内限定
美濃手すき和紙	国内産の楮、雁皮等の皮を用いた非木材繊維のみ	流し漉きの技法を用いたもの	美濃市内限定
美濃機械すき和紙	非木材繊維を少しでも含めば産地は問わず	手すきに近い品質が出せる機械で製造	美濃市、岐阜市、関市

②④美濃和紙 伝統の存続

<現状・課題等>

①手すき和紙後継者の育成

- 「本美濃紙保存会」会員はR1年に1名、R2年にも1名が新たに加わり、会員数は9名、研修生は9名となっている(R2年7月時点)。しかしながら、会員の半数を70～80歳代が占めており、本会員の育成は引き継ぎの課題となっている。
- 「後継者育成奨励金制度※」がH16年頃より使われていない状況であったが、R2年度より「美濃・手すき和紙基礎スクール」の受講生が同制度の利用を開始している。
※同制度は2年間、5万円/月の奨励金を交付し和紙に関わる職人の育成を支援するもの



※イメージ図

②原料の確保

- 本美濃紙の原料供給者である茨城県の大子那須楮の生産者が減少。美濃市関係者が大子町に訪問、原料確保を働き掛け、大子那須楮保存会を設立して貰った。
- 美濃市内においてもH31年より楮の試験栽培を実施している。ただし、栽培には最低3年程度を有する為、実際に収穫できるかは今後検証していく。
- 自家栽培に関して、H27年に美濃市手漉き和紙協同組合により富山県の「東中江和紙加工生産組合」(楮等の原材料の自家栽培農家)の視察が行われている。

③用具の確保

- 簀(す)、桁(けた)、刷毛(はけ)といった手漉き用具を作る職人が減少、高齢化が進んでいる
- 桁職人、刷毛職人とも美濃市内に1名ずつ確保できている。しかしながら、刷毛(はけ)職人については全国でも1人しかおらず、引き続き県全体でのバックアップが必要となっている。

③和紙サミットの開催、⑤観光

<和紙サミット開催>

- ユネスコの無形文化遺産登録を受けた島根県浜田市、埼玉県小川町、東秩父村と「ユネスコ和紙ブランド推進連携事業」を立ち上げ、3紙連携して産業振興とブランド価値向上を図ることとした。その中のイベントの1つが和紙サミットの開催である。
- 第1回は2016年7月2日に浜田市で、第2回は小川町と東秩父村で開催され、和紙関係者等が集まり盛況であった。
- 持ち回りで第3回目は、地元的美濃市で2018年10月18日に開催された(※第4回は台風により中止となった)。
- それ以外にも3紙連携で各地のイベントに出展し、実演している。



<美濃和紙が関係する観光の動き>

- 2016年2月に美濃市がふるさと名物応援宣言で「美濃和紙」を応援することを宣言。
- 同年4月に岐阜市、関市、郡上市等と連携し地域連携DMOを立ち上げ、長良川流域周遊キャンペーンを開始。
- 同4月、‘美濃手すき和紙の家 旧古田行三邸’竣工。→
(住居内に作業場がある唯一の施設)
- 冬のモニターツアーで和紙人形作り体験など美濃市を組込み販売。(日本旅行)
- 2017年4月和紙の里会館リニューアルオープン。本美濃紙のコーナー新設。



③和紙サミットin美濃市の開催

- 石州半紙(島根県浜田市)、細川紙(埼玉県小川町・東秩父村)、本美濃紙(美濃市)は国連教育科学文化機関(ユネスコ)の無形文化遺産に「日本の手漉和紙技術」として2014年に登録された。
- 「和紙サミット」は2016年から産地の持ち回りで開催され、2018年10月18日に「手すき和紙技術を未来につなげるために」というテーマで、美濃市で初めて開催された。

◆ <内 容>

1. 第1部 3産地の取組発表

次世代職人による紙漉き談義 ～3産地の技術伝承～

2. 第2部 書道家 武田 双雲 氏による基調講演:日本の和紙と書+書道パフォーマンス

- 和紙の手触りをこよなく愛しているという武田早雲さんが登壇し、本美濃紙保存会長の澤村正さんが漉いた本美濃紙の和紙に書道パフォーマンスを披露。
- 「これまで会ってきた和紙の職人さんたちは、誠実さが印象的だった。」と、「誠」の字を書かれた。
- 書道家や手漉き和紙職人といった、手先と感性を駆使する仕事は、AIの時代にますます価値が出てくる。

3. 第3部 和紙サミット宣言

- 千年を超える伝統文化を継承するため、各産地の技術保持3団体と4市町村長の連名で、技術の伝承や後継者の育成、支援を誓うサミット宣言を採択。



美濃和紙のブランド発信事業等

【最近の動きと事業の進捗状況】

- 2018年2月にニューヨークで開催された「NY NOW」に美濃和紙の新ブランド商品を展示。
- 2019年2月東京インターナショナル・ギフトショー春2019へ出展。
- 2020年東京オリンピック・パラリンピック各競技の入賞者に贈られるすべての表彰状に「美濃手すき和紙」の採用が決定。美濃手すき和紙協同組合の組合員により2020年3月に1万9,000枚(予備を含む)が製作された。



左から、本美濃紙、美濃手すき和紙、美濃機械すき和紙

事業進捗状況8年度末

【地方創生推進交付金 実績状況】	単位	KPI		実績値	
		年度	数値	年度	数値
美濃和紙ブランドの価値向上・発信事業					
美濃和紙ブランドを使用できる「美濃和紙ブランド」協同組合」加盟事業者の売上高合計 【2013年度:73億円 → 2018年度:88億円】	億円	2016年度	80	2016年度	83
本美濃紙手漉き和紙技術継承者数 【2015年度:7人 → 2018年度:8人】	人	2016年度	7	2016年度	7
美濃手漉き和紙技術継承者数 【2015年度:35人 → 2018年度:37人】	人	2016年度	35	2016年度	35
【地方創生加速化交付金 実績状況】	単位	KPI		実績値	
		年度	数値	年度	数値
美濃和紙ブランドの価値向上・発信事業					
美濃和紙ブランドを使用できる「美濃和紙ブランド」協同組合」加盟事業者の売上高合計	%	2016年度	平成25年度対比 1割増 (80億円)	2016年度	1.3割増 (83億円)

出所:岐阜県HP